

8人制  
サッカーを  
しよう！

JFA U-12年代主催大会8人制移行

全日本少年サッカー大会および都道府県大会

8人制趣旨

開催ハンドブック



DREAM  
FOOTBALL

財団法人 日本サッカー協会

## JFA 2005年宣言

### JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、  
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

### JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。  
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。  
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

### JFAの約束2015

2015年には、世界でトップ10の組織となり、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーが500万人になる。
2. 日本代表チームは、世界でトップ10のチームとなる。

### JFAの約束2050

2050年までに、すべての人々と喜びを分かちあうために、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーが1000万人になる。
2. FIFAワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝チームとなる。

# DREAM

夢があるから強くなる



JFA U-12年代主催大会 8人制移行

全日本少年サッカー大会および都道府県大会

# 8人制趣旨 開催ハンドブック

8人制  
サッカーを  
しよう！



DREAM

財団法人 日本サッカー協会

8人制  
サッカーを  
しよう！

Players  
First!

育成の土台として非常に重要な U-12 年代のゲーム環境に、今回大きな改革を行います。一つは年間を通した基軸となるリーグ戦を置くこと。そしてもう一つは、JFA 主催の大会を 8 人制に変更することです。

これらの改革は、日本サッカー、日本社会の将来を担う、子ども達が将来に向けて大きく成長するために、最も良い環境を用意したいという願いから、関係者が長年にわたって検討・ディスカッションを続けてきた結果に基づくものです。

子ども達のサッカー環境を支える大人の皆さんに、改革の趣旨を理解していただくことが重要であると考えています。趣旨に沿った上で、いろいろな判断を伴うケースが生じた場合に、ぜひプレーヤーズファーストで、ご判断いただければと思います。



8人制  
サッカーを  
しよう！

子ども達が将来に向けて  
大きく成長するための準備として  
良い経験の積み重ねが重要です。

U-12年代のため

# 「大会の

## 1 リスペクト『大切に思うこと』

私達はフェアプレーの原点として「リスペクト」を重視し、キャンペーンを行っています。子ども達のこの大会が互いのリスペクトあふれる大会となることを望んでいます。

## 2 クリエイティブでたくましい人間の育成

育成において大切にしてきた考え方です。クリエイティブな選手というのは、基本をそなえ、局面において自分自身で判断し、解決していく力を持った選手です。そしてどんな状況でも心身ともにたくましく、プレーできる選手です。指導とゲーム環境で、そういった選手を育成したいと考えています。

財団法人日本サッカー協会は、日本の将来を担う子ども達のサッカーへの興味・関心を深め、サッカーの技術・理解を向上させると同時に、サッカーを通じて心身を鍛え、リスペクトの精神を養い、クリエイティブでたくましい人間の育成を目指し、研修の場として本大会を開催します。

将来に向けて大きく成長するための準備として、この年代にふさわしいゲーム環境

# の研修大会として の趣旨」

## 3 将来に向けて この年代にふさわしいゲーム環境を

子どもは小さな大人ではありません。また、ここがゴールではありません。成長の過程において、それぞれは特異な年代であり、将来の完成期に向け、最適なステップを積み重ねていくことが有効であり重要です。技術等サッカー選手としての基本の土台を身につけるべきこの年代に、全員がたくさんボールに触りプレーに関わることができるようなゲーム環境を用意したいのです。

## 4 豊かな経験を積み重ねる中で自ら成長

適切に設定され組織されたゲームは、それ自体が子ども達がサッカーを学ぶための最高の先生となります。有用な経験をたくさん積むことで、自らが成長していけるようサポートすることが大人の役割です。

## 5 スポーツを文化に

そして最終的にはサッカー、スポーツがなくてはならない自然なものとして人々の生活に溶け込み、文化となることを期待しています。

を提供することにより、育成年代で年代に応じた豊かな経験を積み重ねる中で自ら成長していくことのできるようサポートしていきます。

子ども達、彼らを取り巻く大人も含め、サッカー、スポーツの素晴らしさに触れ、生涯にわたって楽しみ関わっていけるよう、文化として醸成していくことを目指していきます。

8人制  
サッカーを  
しよう！

# 「この年代に ふさわしいサッカー」

ボールに関わる頻度が高い8人制サッカーは  
この年代の子ども達に適したゲーム環境を創出します。



サッカー選手としての技術力向上のためには、ボールタッチの回数を増やすことは不可欠です。8人制のゲームでは、ボールに関わる回数が増えることで判断の回数も増えます。また11人制よりも観るものが減ることで、判断が明確になります。ピッチサイズもこの年代の体力に適しており、無理なく蹴れる距離を見渡して、よりボールを大事にプレーすることができます。そして数多くの成功と失敗を繰り返すことでサッカー理解を深めていくことができるのです。

8人制では守備のポジションの選手が攻撃参加してシュートチャンスに自らが関わることもできます。攻撃のポジションの選手もゴール前まで戻って守備をする状況もあります。サッカーの全体像を理解していく上で、どのポジションでも常に攻守に関わり続けることができるゲーム環境となります。日本の課題である得点力向上、守備力向上のためにも、ゴール前の場面が多く創出できる8人制のゲームは適していると言えます。シュートチャンスが増えることで、同時にペナルティーエリア付近での守備力の向上にもつながっていきます。

データで比較！

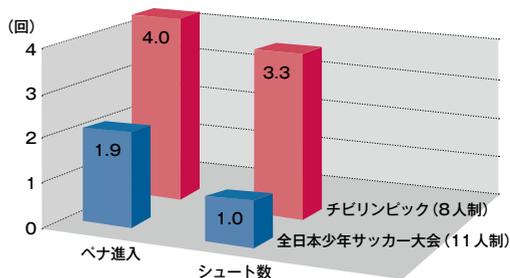
## 8人制と11人制を比較

8人制：2009チビリンピック VS 11人制：2008全日本少年サッカー大会

### シュート数と ペナルティーエリア進入数

11人制と比較して、フィールドプレーヤー1人あたりのシュート数、ペナルティーエリア進入数、すなわち、日本の課題と言われている両ゴール前での攻守の機会が大きく増えます。

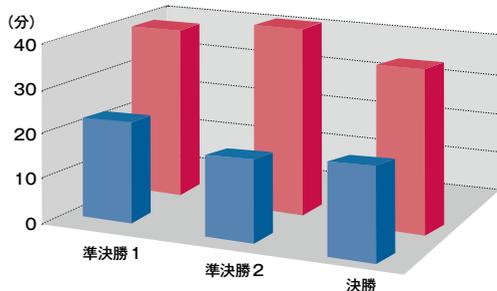
※ 出場プレーヤー（GK含む）1人40分換算



### プレー回数の比較

11人制と比較して、各プレーヤーのプレー回数が大きく増えます。各自が実際にボールに触ってプレーする機会が重要です。

※ 出場プレーヤー（GK含む）1人40分換算



### シュートをうった人数

8人制ではDFも含めさまざまなポジションの選手がゴール前のプレーに関わり、シュートをうつ機会があります。

※ 全日本少年サッカー大会 (11人制) 全135試合のべ270チーム

※ チビリンピック (8人制) 全8試合のべ14チーム

	シュートをうった選手	チーム内の割合
11人制	平均4.5人	チームの25%
8人制	平均7.5人	チームの42%

※ 1試合1チーム (登録18名) 平均

## 8人制の メリット

### 選手へアプローチできること

- ボールタッチ回数が多い ▶▶▶ **技術力向上**
- プレー回数が増える ▶▶▶ **判断の回数が増える**
- 11人制よりも観るものが減る ▶▶▶ **判断が明確になる**
- どのポジションでも攻守に関わり続けられる  
▶▶▶ **サッカーの全体像を理解、関わることの習慣づけ**
- ゴール前の攻防が増える ▶▶▶ 日本の課題である**得点力向上・守備力向上**

プレー機会を増やす努力を！

## 8人制の趣旨を生かすために みんなが実際にたくさんプレー

### 11人→8人？

少子化や複数チーム参加の奨励等を鑑み、ピリオド制はとりません。自由な交代を活用して、どんどんみんなにプレーをさせてください。

条件として、1試合あるいは一定数の試合内における選手全員の出場時間の制限を設定する等、細かく規定で縛ることはしませんが、全員にプレーしてほしいというのが本来の趣旨です。

規定で縛ってしまうと、逆に出場したくてもできないチームが出てしまったり、あるいは規定の言葉のみに反応してさまざまな問題が出てくる懸念があるからです。趣旨を理解して実施していただくことが重要であると考えています。

また全国大会においては、趣旨・努力目標を提示して、そのような取組みをしたチームを評価し、表彰したり、さまざまな場で紹介したりすることも検討しています。

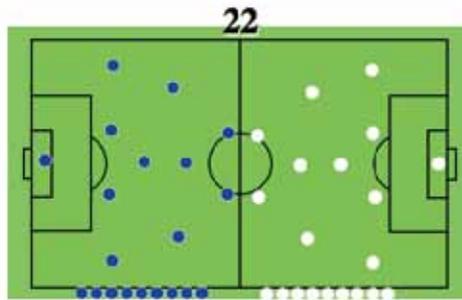
※2009年まででも、競技規則で縛ることなく、チームとしての考え方で、全国大会で全員を出しているチームが18チーム(38.7%)、そのうち10分未満の出場選手がゼロのチームは7チーム(14.6%)であり、趣旨・精神は浸透してきています。一方で、出場選手が13名以下のチームは8チーム(16.7%)ありました。この点についてはアプローチを継続していきたいと考えています。



## ハーフピッチでゲームが可能に

8人制は、正規のピッチのハーフコートのサイドを少し縮めて、2面並行して行うことを基本としています。両側で同時に行うことができるので、場所の確保も運営もスムーズに進められます。

1ピッチでプレーできる人数も22人→32人に増えることになります。たくさんの選手がゲームに参加することができるので、一人ひとりのプレー機会も必然的に増えていきます。子ども達には、キック力、見渡せる距離等によって、有効にプレーに関わることでできる距離というものがあります。ハーフピッチ程度での大きさが、負担なく、選手全員が常にプレーに関われる意味で、この年代に適しています。



## Maximum Participation, Maximum FUN



# 8人制 サッカーを しよう！

## 都道府県予選では 複数チームの参加を推奨します！

登録している選手全員がプレーできるように、  
人数が多いクラブは、複数チームにて予選に参加をしてください！

### 人数の下限は設けません

より多くのチームに参加してほしいという趣旨で、全員交代のルールを採用していません。

JFAとしては人数の下限は設けませんが、キックオフ時に8人の競技者が揃っていることを条件とします。

### 複数チームの参加が可能

一加盟チーム（クラブ）から複数チームの参加を可能とします。同一クラブ内に関し、人数が多い場合は、ぜひ複数チームで参加してください。

異なるクラブからの移籍に関しては、今までのルールと変わりません。

同一クラブのチーム同士の対戦となっても構いません。

なお予選の間は一つのチームとして、同一クラブ内であってもチームの移籍は認めません。

### 決勝大会へは1クラブから1チーム

都道府県大会で優勝し、都道府県代表となった場合は、決勝大会へ1クラブから1チームの参加となります。

決勝大会へは、都道府県大会で優勝したチーム・選手が出場します。そのチームの都道府県大会への登録選手数が16名に満たない場合は、

「加盟チーム」内の選手から補充することができます。

参加選手の変更については、傷病を理由とする場合のみ認められます。その際には申請の際に医師が発行する診断書を添えて提出してください。また、大会チーム登録以降の選手の追加登録はできません。

### 運営上の注意

参加する上で複数チームを責任持って運営できることが重要です。参加チーム数の分、引率責任者として、D級以上の指導者資格保持者がいること（指導者と適正な選手数とのバランスを考慮）。不足している場合はぜひ各都道府県にてD級講習会を受講してください。

同時に試合が組まれても、運営・引率上対応可能であること（帯同審判等の対応も含まれます）。あまりに参加チーム数が多くなり、またその他の理由で都道府県予選の運営に支障が出る場合には、ケースに応じ、必要に応じてさらなる制限（複数チーム運営能力等により）をつける場合があります。

### 年齢の下限について

個人差が大きいので年代で制限を提示することは難しいですが、選手の安全を第一に留意してください。

## ただし、育成年代のゲーム環境はあくまでもリーグ戦をベースに！

トーナメント方式は最後まで勝ち進むチームと、1回戦で敗退するチームとでは、ゲーム数に大きな違いがあります。それを選手の育成を観点にして考えると、ゲーム経験が少ないことは、選手として上達する機会を失っていることにつながると考えます。だからこそ全てのチームに平等なゲーム機会を提供できるリーグ戦形式の競技会が重要になります。

この年代も、年間にわたって行われる日常生活圏内でリーグ戦を重ねることを第一の基軸として考えます。

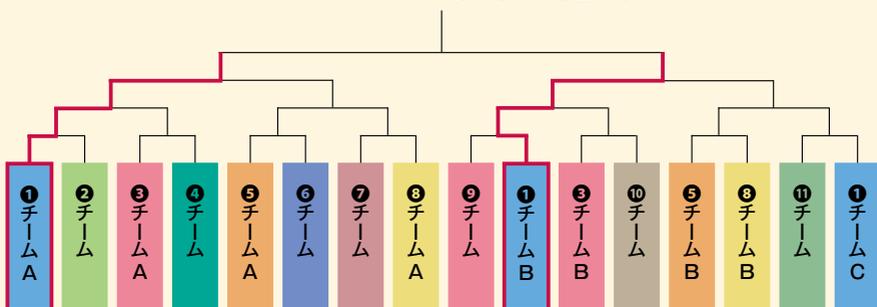


十分な試合数のリーグ戦を、バランスよく配置することが重要です。

リーグ戦の期間を十分確保した上で、都道府県予選はシンプルに、トーナメントで短期の日程で行うようにしてください。

### 複数チーム参加推奨

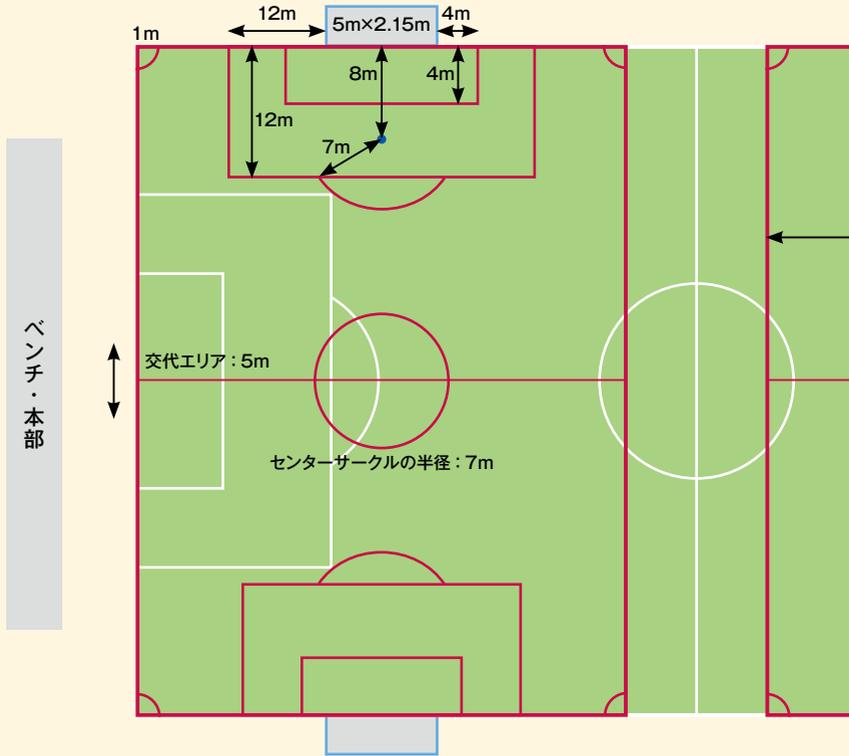
同一クラブのA対Bの対戦になっても構わない



# 8人制 サッカーを しよう！

## 8人制サッカーを実施するための 推奨ガイドライン

※ 詳細は、8人制サッカールールと審判法を参照してください。



正規のピッチの中央に5m程度の交代スペースを設け、2面のフィールドを設置することで、同時に試合を実施することが可能です。

大きさは68×50mを推奨します。

ゴールは少年用ゴール（5m×2.15m）を推奨します。

試合時間は20分前後半を基本とします。

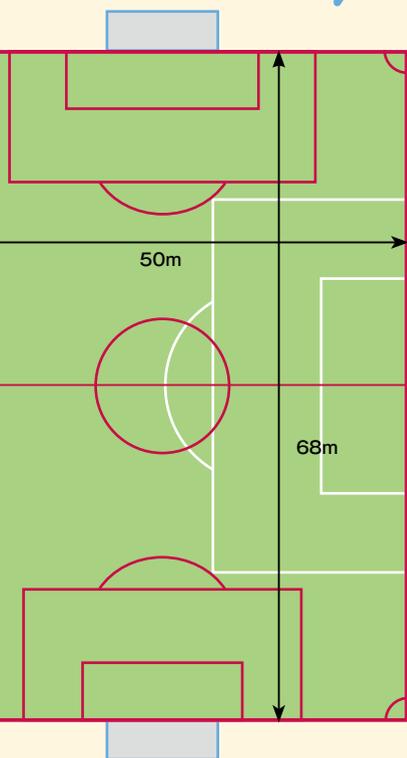
ボールは4号球を基本とします。

ただしこれだけでなければ実施できないということではありません。使用できる施設やチームの状況に応じて、大きさや用具については柔軟に対応してください。

審判は1人審判制（1人の主審と1人の補助審判で運営）を推奨します。→P19参照

正規のハーフピッチで

OK!



ベンチ・本部

## 出場・交代に関して

チームは7人のフィールドプレーヤーと1人のゴールキーパーから成ります。キックオフ時に必ず8名が揃っていることを条件とします。

交代は自由な交代とし、一度退いた選手も再び出場することができます。

フィールドプレーヤー同士に関しては、インプレー中であっても、主審に告げることなく、交代エリアから自由に交代することができます。

交代エリアは、ベンチ側タッチライン上、ハーフウェーラインを中心に設けます。

アウトするプレーヤーも交代エリアからとなります。ただし怪我をした場合などはその限りではありません。

また、ゴールキーパーに関わる交代に関しては、通常と同じように事前に主審に告げ、アウトオブプレー中に行います。ゴールキーパー同士、ゴールキーパーとフィールドプレーヤーの入れ替え両方に当てはまります。

1試合の中での全員出場を規則とはしませんが、自由な交代を活用し、ぜひ大勢の選手に多くのプレー機会を与えながら試合を行っていただきたいと思えます。

退場が出た場合、その選手は出場できなくなりますが、別の選手を補充して8名で試合を続行します。

## リスタート

### ● フリーキック、コーナーキック

相手選手は、ボールがインプレーになるまで、ボールから7m以上離れます。

### ● スローイン

相手選手は、ボールがインプレーになるまで、ボールから2m以上離れます。



8人制  
サッカーを  
しよう！

# 「ゴールキーパー」

専門性の高いポジションであるゴールキーパー。  
だからこそこの年代から固定することなく  
たくさん子ども達に経験させてください。  
またゴールキーパーにこだわることなく  
いろいろなポジションにチャレンジしましょう。  
さまざまな経験がそれぞれの子ども達の  
将来に生きることになります。

現代サッカーにおいてはゴールキーパーの役割がますます重要になってきており、フィールドプレーヤーと同様のサッカーの技術も兼ね備え、プレー全体に積極的に関わることでできる選手の育成が必要になってきています。

そのため、ぜひ多くの選手にポジティブにトライしてほしいと考えています。

また、その一環で、必ずしも専門ということだけでなく、フィールドプレーヤー、ゴールキーパーそれぞれが両方の経験をしておくことは、発掘の意味でも、サッカー理解を深める意味でも有用であると考えています。

ゴールを決める選手が喜びを体験するように、シュートを止める喜び、ゴールキーパーとしてプレーする喜びを体験させましょう。

そのため、試合に際してフィールドプレーヤーとゴールキーパーが頻繁に交代できるようにユニフォームに関しては、ピブス等を活用して柔軟な対応をお願いします。



交代の際は柔軟な対応を！

## 試合中のユニフォーム変更は簡単にかつ明確に

### フィールドプレイヤーが ゴールキーパーを行う場合

チームですでにユニフォームの用意がある場合は、それを着用します。大会側で用意する場合には、それを着用します。他チームと色の重複のないサブユニフォーム等で代用しても構いません。

大会側としてのその選手の把握は、登録された固有番号とし、ピブスやその他のユニフォームの番号が登録番号と必ずしも合っていないと良いこととします。



フィールドプレイヤー



ゴールキーパー

### ゴールキーパーが フィールドプレイヤーを行う場合

ゴールキーパーは同じ番号または他の選手と重ならない番号、あるいは番号なしのフィールドプレイヤーのユニフォームを着用します。その選手の把握はもともその選手が登録された固有番号で行います。



ゴールキーパー



フィールドプレイヤー

※いずれに場合も、シューズ、ストッキングに関しては、そのまま構いません。

※安全には十分留意してください。

8人制の  
メリット

### ゴールキーパーに チャレンジしよう！

- たくさん出現するゴール前のシーンでたくさんの経験をしましょう。
- シンプルなゲームで、守備ばかりでなく攻撃にも積極的に関わりたいでしょう。



8人制  
サッカーを  
しよう！

# 「ユニフォーム」

公式戦でのユニフォームに関する規程を徹底していただいてきましたが、それによって、子ども達のプレー機会が制限されることがないように、都道府県予選では柔軟な対応をお願いします。

U-12年代ということを鑑み、子ども達に無用な負担をかけることなく、多くの子ども達が無理なく参加できるような環境を整えていきます。

“Players First”で参加できることを最優先と考えます。

大会運営側とチーム関係者がよく話し合い、モラルを守って、円滑な大会運営を行ってください。

都道府県予選では、こうでなければ出場してはならない、と制限するのではなく、柔軟に対応していただければと思います。

また、同一クラブからの複数チームの参加奨励する観点から、チームの選手番号に関しては通し番号である必要はありません。



ユニフォーム規定を守るのは原則！

## 47都道府県予選では状況に合わせて柔軟な対応を！

複数チームの出場が増えるとより多くのケースも予想されます。

☹️ ユニフォームは正副2色しかないので2チームで出場した場合はそれぞれ正1色となり、副はピブス対応になってしまう。

☹️ ゴールキーパーユニフォームの番号・枚数が決まっているので、登録選手、交代人数が限られる。

☹️ 個人でユニフォームを作るのは負担が大きい。チームのユニフォームも維持管理や対応が難しい。

☹️ 手作業による番号の付け替えが間に合わず、選手交代ができなかったことがある。



☹️ ユニフォームの枚数より、選手の人数が多くなってしまったので、試合に参加できない選手がいる。

大人側の都合で

子ども達の不利益にならないようにしてください。



ユニフォームに不備があることにより、選手がゲームに出場できなくなるような対応は避けたいと考えます。

選手の参加を最優先してください。趣旨に沿った柔軟な対応、さまざまな工夫をすることで、より良い大会としていくように努力してください。

ただし参加者側の対応によっては、コーチ等のチーム関係者が処罰を受けることは考えられます。

8人制  
サッカーを  
しよう！

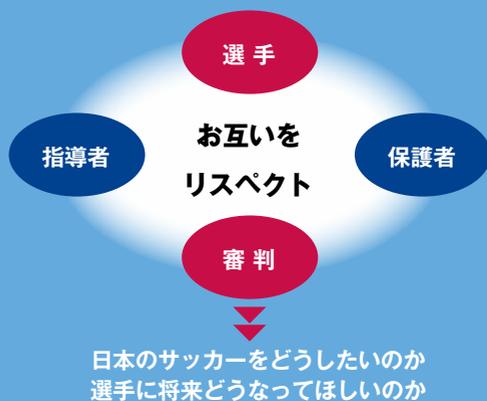
# 「審判」

審判はサッカーを成り立たせる大切な仲間。  
協力して、たくましい選手を育成し、  
皆で子ども達のサッカーをよくしていきます。

日本サッカー協会では、技術と審判が協調し、タフでたくましい選手の育成を目指しています。蹴られても倒れてもフェアにプレーを続けようとするのが子どもが本来が持つ素の姿であり、その精神を大切に育てていきたいと考えています。

選手と審判お互いの了解の上で判定し、ゲームを進めていく、というのがスポーツの原点です。審判はプレーの流れを重視し、フェアプレーの精神のもとプレーヤーのプレー意図に気づき、子ども達が思いきりプレーできるようなゲームづくりを心がけてください。それによって子ども達だけでなく、指導者や保護者を含め、ゲームに関わる全ての人にリスペクトの精神が根付くことになります。

また育成年代では指導者が審判を兼ねるケースがほとんどです。指導者として、審判として、どちらもサッカーを理解し良くしていく仲間として、その役割を果たしてください。



たくましい選手の育成のために！

## 8人制サッカーでは1人制審判の推奨します。

1人の審判が全てを見て判断することはできません。だからこそ自ずとフェアプレー精神が育まれていきます。審判から見える見えないにかかわらず、子ども達はゲームの精神を尊重して全力でプレーします。自己申告を含め、ゲームを協力してスムーズに進め、プレーに集中し、判定にしたがって次のプレーに移る。選手と審判がお互いにリスペクトすることでゲームが成立していくのです。

ただし、「8人制サッカー＝1人制審判」ではありません。

この年代のサッカーを支える4級等の審判が無理なく取り組めることが重要です。また、さらに上の年代の11人制であってもより積極的に1人審判にトライしてほしいと考えています。

全国大会では、1人制と3人制の両方を行います。

### 1人制審判 の 目的

選手

相互にサッカーを理解する  
基準を共有する

審判

#### 笛が鳴るまでプレーする

- ファウルを誘って倒れたり、倒れながら審判を覗くようなことはしない
- 倒れてもすぐ起きてプレーを行う（サッカーはコンタクトするスポーツ）
- 間違っても審判の判定は受け入れる  
⇒ 審判が3人で行って間違いはある

#### ゲームを読む力を養う

- 選手の意図を読み、次を予測する
- 「激しくても正当なプレー」と、「些細でもファウルはファウル」を見極める
- 選手と同じ目線でレフェリング（笛だけで会話しない）



1人でゲームを読み全体をコントロールしていくことを心がけることで、審判能力の向上につながります。

# リスペクトの精神を持って ユース審判を育てていこう！

## ゲームを成り立たせるためにユース審判の育成

全日本少年サッカー大会では、ユース審判の研修大会として、全国から募ったユース審判を中心に審判活動を行っています。子ども達の大会に中高生の審判が関わることは、非常に意義のあることと考えています。ぜひ都道府県大会でも積極的に導入してください。

### ▶▶▶ 地域に貢献

種別や年代を越えてユース審判が活躍することは、地域への貢献につながっていくと考えます。

ユース審判  
の  
メリット

### ▶▶▶ 試合数の増加に対応

リーグ戦の導入や複数チームの参加を奨励していくことで、全体の試合数が増加します。したがって審判の確保が必要になります。

### ▶▶▶ ゲームは自分達でつくる

ゲームを運営していくサイドの一員として役割を果たすことで、ユース年代から、自分達でゲームを成り立たせていく意識を養います。自主運営のゲームも積極的に行ってください。





## ユース審判の現状の課題とその考え方

### 責任という観点から拒否されるケースがある

厳しいゲームだと責任がとれないとして、ユース審判を敬遠する傾向がまだまだ根強いのが現状です。しかし、サッカー仲間として、また中高生を大人へと自立させる手助けとして、お互いにリスペクトすることが何よりも重要です。大人が協力して守る方法をとる一方で、これが当たり前になり立つような社会になりたいものです。

解決に向けて！ **指導者・選手・保護者による暴言批判からの保護**

### プレーヤーと審判の両立を目指す

チームで協力してゲームを成り立たせ、選手一人ひとりがその役割を果たしていくことが重要です。また、指導者がチームや選手にどのように働きかけるかが大きく影響するのではないのでしょうか。

解決に向けて！ **審判は「補欠の仕事」ではなく「みんなの仕事」**

### 種別の中で活動が完結してしまっている

試合数が増え、審判の調整をはじめ、グラウンドの確保など運営面でも負担がかかってきます。各種別、各年代の枠を超えて、調整し合い、無駄なく審判活動も行っていく必要があります。ユース審判を育成・活用することも有効になってくると思われます。

解決に向けて！ **種別・年代にこだわらず、ユース審判の積極的な導入を**

### 遠方での試合では引率が難しい

リーグ戦も含めゲーム数が増加する中で、U-12、U-15、U-18等各年代の活動情報やグラウンドを共有し、たとえば地域の高校のグラウンドで中学生、小学生のゲームを行い、高校生が審判をするようなことがあってよいのではないのでしょうか。その場所が地域のコミュニティとなりサッカー文化醸成のための第一歩となれば喜ばしいことだと思います。

解決に向けて！ **生活圏内での活動を工夫して行う**

# 8人制 サッカーを しよう！

## フェアプレー、リスペクト フェアプレーとは 全力を尽くして戦うこと

子ども達がプレーに集中し、全力を尽くすことができるように  
皆がポジティブで気持ちの良いゲームを目指しましょう。

### グリーンカードの推奨

イエローカード、レッドカードというやってはいけないことに対するカードだけではなく、少年の大会では、グリーンカードを導入しています。望ましいことに対するポジティブな評価、ポジティブなフィードバックをするためのものです。それが望ましいことであるということ、本人、周囲に示すことで、理解を広く深めていきたいという考え方です。



都道府県大会でもぜひ積極的に出して使って下さい。使用の参考にDVDも作成しています。

### フェアプレーコンテスト

従来は、警告・退場の少ないチームというネガティブなポイントの減点法でフェアプレー賞が決定されることが一般的でしたが、ポジティブプレーを評価していく方法をとっています。また、プレーヤーばかりでなく、プレーヤーが精一杯全力を尽くしてプレーできるように、選手、ベンチ、審判への態度、観客等、サッカーのゲームをつくる要素全体で総合的にポジティ

ブな面の評価を中心に判断するものです。

全日本少年サッカー大会では、審判インストラクターとテクニカルスタディグループが共同で全試合を対象に行っています。

少年の大会ばかりでなく、キリンカップ、プリンスリーグ等でも実施しています。

### リスペクト「大切に思うこと」

リスペクトとは…フェアプレーの原点です。

ピッチ上の人、それを支え、とりまく全ての人、ものを互いに「大切に思うこと」。

大好きなサッカーをもっと楽しむために、互いを「大切に思うこと」、Japan's Wayである「フェアで強い」日本サッカーを目指して、日本サッカー協会、Jリーグは、リスペクト・プロジェクトを推進しています。FIFA、UEFA、FA等にも実施されている世界基準の考え方です。

全日本少年サッカー大会では、2009年より、選手宣誓で代表がすばらしいリスペクト宣言をしてくれています。都道府県の大会でも、ぜひ、リスペクトの促進に積極的に取り組んでいただきたいと思います。



## フェアプレーコンテストガイドライン(抜粋)

### [1] フェアプレーの考え方

ゲームをフェアにプレーし、相手にスポーツマン精神で接するという考え方は、スポーツにおける最もすばらしい要素の一つです。子どものときにこそ、真のフェアプレー精神を身につけさせたいと考えます。

フェアプレーのコンセプトは、以下の原則に分けることができます。これは、プレーヤーばかりでなくゲームに関わるあらゆる人、すなわち、ベンチ、観客にも適用されるものです。関わる全ての人で良いゲームを作り出すと考えてください。

- 競技規則と大会規則を尊重する。
- 対戦相手、レフェリー、その他、観客、相手クラブのオフィシャルや協会、メディア等、試合に関わるあらゆる人に対し、スポーツマン精神にのっとった行動をとるよう、できるかぎりの努力をする。
- 試合に関わる誰もが、試合前、中、後に、試合の結果やいかなる判定があっても、以上に示したように振る舞う。(参考：UEFAによるEURO2008大会規定)

### [2] フェアプレーアセスメント

#### イントロダクション

- フェアプレー精神にのっとって行動することは、スポーツの普及、発展、参加に非常に重要なことです。フェアプレーに賛同する活動は、スポーツマン精神、そしてプレーヤー、チーム関係者、観客のスポーツマンの行動を促進し、それによって、ゲームに関わるあらゆる者の喜びを増すことにつながります。
- フェアプレー促進のキャンペーンの一環として、JFAは大会の際にフェアプレーコンテストを実施します。このコンテストは、大会における担当者(TSG、MC、アセッサー等)が判定し、フェアプレーアセスメントフォームに記入します。この専門担当者をあらためて配置する必要はありません。

#### 結果の収集

- 決勝大会の全試合を対象とすることを基本とします。
- 各大会の組織委員会は、大会終了時に結果を発表します。これが最終決定となります。
- フェアプレーコンテスト勝者には、大会主催者が定めたものが授与されます。

#### 評価

- アセスメントフォームは、6項目から成り、これらの項目によって、チームのフェアプレーパフォーマンスが判定されます。これらの項目は、ネガティブな面よりもポジティブな面を強調したものとなっています。一般的なルールとして、満点は、チームがポジティブな態度を示したときのみ与えられます。

- ① カード
- ② ポジティブプレー
- ③ 相手に対する敬意
- ④ レフェリー/マッチオフィシャルに対する敬意
- ⑤ チームオフィシャルの態度
- ⑥ 応援者の行動

#### 最終評価

#### 追記

- このコンテストを活用して、フェアプレー、ポジティブなプレーの考え方を、参加者ばかりでなく、広く普及させてください。
- 年代や大会に応じて、強調、奨励したい事項がある場合は、項目を追加・修正していただいで結構です。



8人制  
サッカーを  
しよう！

# 「保護者の皆さんと ともに」

子ども達の成長を楽しみに見守り、応援し、サポートしましょう。  
保護者の皆さんのポジティブな関わりが  
子ども達にとって大きな支えになります。  
子ども達のために最高のサポーターを目指してください。

子ども達のサッカーには、保護者の皆さんの協力なしには成り立ちません。送り迎え等ばかりではなく、引率、審判や指導者をしていただくこともあります。そのご協力、大きな情熱には、大変感謝しています。同時に、大人は子ども達に大きな影響を与えます。その中でも保護者の皆さんの影響は非常に大きいものです。

ぜひとも、保護者の皆さんには、子ども達のサッカーのこと、将来に向けた育成において大切な考え方をご理解いただいたうえで、子ども達が大きくたくましく育っていくために、最高のサポートをしていただきたいと考えています。



将来に向けて大きく育てていくために！

## 心から子ども達を応援する気持ちは 子ども達にとってかけがえのないエネルギーです。

### めざせ、ベストサポーター！

子どものために良かれと思うその気持ちが、最適な方向になるために。

子ども達がサッカーに夢中になって取り組んでいる姿を見て、何かをしてあげなければと思うことは保護者としては当然です。

しかし、サッカーでの主役は子どもです。子ども達自身が考え、感じ、判断し、プレーしたことを認め、たとえそれがうまくいかなくても、決して責めないでください。失敗したことは十分にわかっています。上手にできたことをしっかりとほめてください。

勝っても負けても大きな拍手。良いプレーには味方、相手関係無しに拍手。そんなすてきな応援が子どものサッカーを盛り上げます。

日本サッカー協会では、保護者向けのハンドブック『めざせ！ベストサポーター』を発行しています。日々の活動にぜひお役立てください。HPにてダウンロードが可能です。



### ポスターやステッカーなどによる啓発活動

#### スマイルサッカー

真剣なまなざし、一生懸命なプレー。選手もコーチも応援も、皆がんばっています。「心にはいつもスマイルを持って」という精神を示すために、あらゆるカテゴリーのADに表示しました。



A



#### 大人向けハンドブック

指導者、審判、保護者、大会運営担当者等、子どもの大会に関わる全ての大人を対象としたハンドブック『合言葉はPlayers First』を作成しました。HPにてダウンロードが可能です。

#### 子どもエリア

子ども達の自由な判断に基づく行動、自立した行動を尊重するエリアとして表示するマークです。子ども達を尊重し、大人は温かく見守りましょう。



「賛同の意思表示」としてバッジを作成しました。いつでも身につけていただければと考えています。



B



#### ポスター

A：子どもに招待されるような大人像  
B：子どものエリアに立ち入る前に鏡で我が身をチェック

HPにてA4版PDFでダウンロード可能です。ポスターとして、またその他の活動に活用していただければと思います。



8人制  
サッカーを  
しよう！

## 大会は子ども達のためのもの！

子ども達が良いゲームをたくさんできるように

私達大人ができる工夫、努力をしましょう。

運営が簡易にシンプルになってかまわない。

プレーすることが子ども達の楽しみであり、一番大事なことのだから。

将来に向けての大きなチャレンジを、子ども達のために皆で協力して、

ぜひとも成し遂げていきましょう！

## そして、サッカー、 スポーツを文化に！



#### 発行

財団法人 日本サッカー協会

#### 編集

財団法人 日本サッカー協会  
技術委員会テクニカルハウス

#### 制作協力

有限会社 ピーチ アンド ダムズン

#### 印刷

アサヒビジネス株式会社

このハンドブックはスポーツ振興くじ  
助成金を受けて印刷しております。



- 本紙掲載のレポート、写真、図表などの無断転載を禁じます。
- 写真提供 Jリーグフォト(株)
- 発行日 2011年2月10日

財団法人 日本サッカー協会の公式ホームページ

<http://www.jfa.or.jp/>

財団法人 日本サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷 3-10-15)JFAハウス

TEL.03・3830・2004 FAX.03・3830・2005

